

第14回 全国草原サミット in おたり

日本の草原は人が管理し続けてきたことで維持されてきました。火入れや採草、放牧など長い時間の中で優れた技術や知恵が生まれ、人々の協働により絆が育まれてきました。しかし戦後の燃料革命などの生活の変化、多様化により、草原の利用は低下し、草原は都市化や植林などの様々な理由により失われ、国土の1%にまで減少してしまい、草原の維持はますます困難を極めることが予想されます。

小谷村でも、各集落にあった茅場の草原は茅葺き屋根の消失とともに、多くが失われ、毎年雪消えとともに行われる「野火つけ」が行われる場所も少なくなっていました。

茅場や湿原を含む草原は、多様な動植物を育み、人々の暮らしは草原によって支えられてきました。草原は牛馬の飼料や茅葺き屋根の材料を供給するとともに、ワラビやセンブリなどの山菜や薬草などを提供する場としても重要でした。また、七草や盆花の文化など、地域の年中行事にも深くかかわってきました。

希少になった草原は観光資源としての価値が高く、多くの希少動植物の観察地としての機能、水源涵養や炭素の固定能力の高さなど、新たな価値が見いだされています。また、草原で培われた技術や知恵が今後の「持続可能な社会」の実現に不可欠であることも注目されています。

この希少となった草原を持つ私たちの自治体は、さらなる学びを続けながら草原を維持し、草原の恵みを享受することに感謝し、「草原のある暮らし」を後世に引き継いでゆく努力を惜しまず、草原に関わるすべての人々とともに交流し連携していくことを、ここ小谷村において宣言します。

小谷宣言

- 一 私たちは草原に関わるすべての人々と連携しながら、茅場をはじめ希少な草原の環境・文化を守り、保全することに努めていきます。
- 一 私たちは草原の貴重な資源を暮らしや観光・産業振興に活用し、草原が育んだ技術や知恵を次世代へと受け継いでいきます。
- 一 私たちは希少な草原の価値を再認識するために学習を継続し、地域社会への還元方法を模索していきます。
- 一 私たちは「全国草原の里市町村連絡協議会」の連携を深め、全国の草原を持つ自治体に協議会への加入促進を進め、希少な草原の価値を共有していきます。
- 一 私たちは「未来に残したい草原の里100選事業」の選定を進め、各地に残る「共創資産」を全国に発信し、活用していきます。

以上宣言する。
令和6年10月5日

大分県竹田市市長 土居 昌弘

大分県九重町長職務代理者
九重町副町長 時松賢一郎

熊本県西原村長 吉井 誠

島根県大田市市長 楫野 弘和

鳥取県江府町長 白石 祐治

広島県安芸太田町長 橋本 博明

広島県北広島町長 箕野 博司

兵庫県神河町長 山名 宗悟

岐阜県白川村長 成原 茂

静岡県東伊豆町長 岩井 茂樹

長野県白馬村長 丸山 俊郎

第14回全国草原サミット・シンポジウム
in おたり 実行委員長
長野県小谷村長

中村義明